

# 花川病院

症 例 概 要 患者氏名：T様（50代 男性）

病名：左中大脳動脈閉塞症

入院期間：平成29年5月下旬 ～ 平成29年11月中旬

訪問リハ介入期間：平成29年11月下旬 ～ 現在に至る

経過：平成29年4月起床後に右片麻痺を自覚しT病院へ救急搬送。来院時JCS2～3、右片麻痺MMT2、左無視、構音障害あり。MRIで内包～放線冠にかけての広範囲脳梗塞を認めた。点滴とリハビリ加療を行い、5月に社会復帰に向けたリハビリ目的で当院へ転院となった。

既往歴：高血圧症

病前の生活：一軒家にて奥様と娘2人との4人暮らし。英語の高校教諭をしており、職場までは車通勤。

本人の希望：職場復帰をしたい。

## 内 容

### 【経過】

入院時、右上下肢の運動麻痺は強く、4点杖軽介助で数mの歩行は可能だったが車椅子レベルであった。リハビリにより、基本動作、屋内移動は杖と装具の使用で自立となったが、杖を手放して歩くことが困難であった。そこで、歩行練習支援ロボットWelwalk介入にて下肢荷重量が増大し、独歩自立へと改善した。また、屋外は杖と装具を併用して600m程度可能となったが、職場までの通勤には不十分な耐久性であった。右上肢は廃用手レベルにとどまり、日常生活は左上肢にて自立となっている。入院当初は錯誤や喚語困難等を伴う失語症状や注意障害なども認められていたが、訓練室レベルではほぼ正常へ改善した。在宅生活は可能として平成29年11月に自宅へ退院した。

復職に向け、当院訪問リハを平成29年11月から開始。右片麻痺と失語症状が残存しながらも、退院直後よりADLや町内程度の散歩は自立されていたが、社会復帰には程遠い状態であった。職場復帰には公共交通機関を含む長距離の歩行や、失語の改善が必要と目標設定を行った。症例の努力を支える支援を継続したことで、通勤に必要な2km以上の歩行と、授業に必要な言語能力に改善がみられ、平成30年3月から産業医との面談を重ね、4月より英語の高校教諭として職場復帰に至った。

家庭内の役割や社会との繋がりを再獲得し、「また働けることが出来て本当に嬉しい」と話された。また、今後は自動車運転や麻痺手の機能向上という新たな目標に向け、訪問リハを継続している。

重度の運動麻痺と失語症がありながらも、回復期リハから訪問リハという医療から介護へと「可能性を引き継ぐ」ことで、職場復帰（英語の高校教諭）という大きな目標を成し遂げた症例である。

**【入院時と退院時の評価】**

FIM：85/126点→117/126点